



# 県病医療ニュース

〒870-8511 大分市大字豊饒476番地 TEL097-546-7111(代表) 内線7712:県病ニュース係  
※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ホームページまたは、1階中央待合ホール備付けのアンケート用紙をご利用ください。

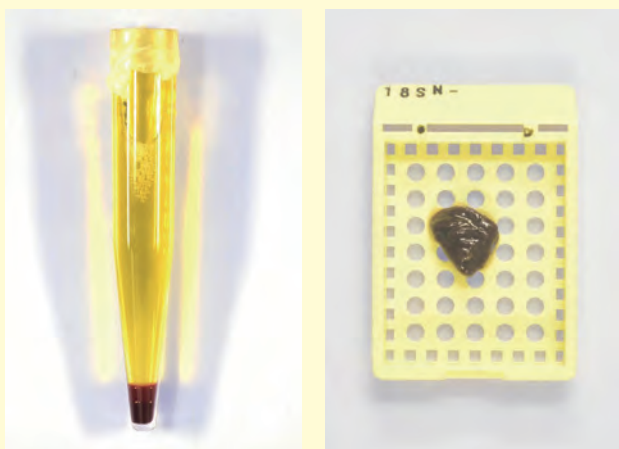
## 臨床検査科病理部 セルブロック法について

胸の壁と肺の間の腔に溜まった水を胸水といいます。また、同じように腹部に溜まった水を腹水といいます。胸水・腹水が溜まる原因として進行した悪性腫瘍、炎症、心不全・肝硬変などがあり、悪性腫瘍の可能性があればどの臓器からの悪性細胞かを明らかにする必要があります。

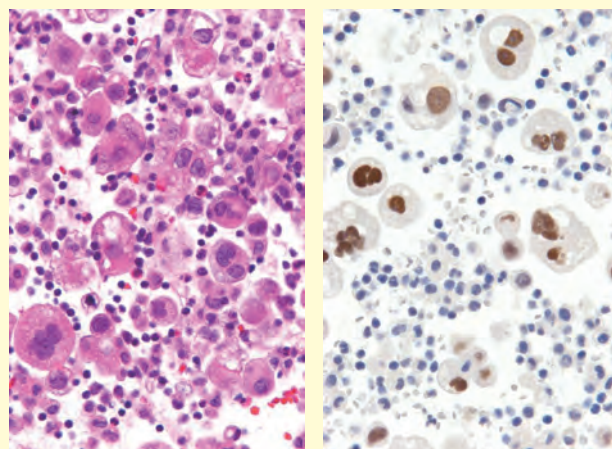
従来はこれら採取液を遠心分離器などで濃縮し、そのままガラスに塗って標本作製していました。この方法では悪性細胞の存在は確認できますが、遺伝子検査や免疫染色などの多様な検査に対応できませんでした。

セルブロック法は胸水・腹水に含まれる細胞を固めて、切除標本と同様の標本作製する方法です。このため遺伝子の保存に優れ、現代の医療に対応する多様な検査が可能になりました。

このセルブロック法は決して新しい方法ではありません。最近の医療の進歩によって、再度注目を浴びた手技です。固める方法は近年の需要に伴って多く開発されていますが、当院ではAB型の血清を使用して細胞を固めています。



左図はチューブに入った胸水を遠心分離して、チューブの底に細胞を集めたところです。その後、AB型血清で固めてホルマリン固定し、右図のような組織検体を作ります。



左図は胸水に含まれる悪性細胞です。悪性中皮腫に似ていますが、右図の免疫染色ではTTF-1という抗体に陽性を示しました。これによって肺の腺がんであることが判明し、肺がんの治療指針に沿って適正に化学療法が行われました。

(臨床検査科病理部 部長 卜部 省悟)

## 県病専門看護師シリーズ

## その5

## 糖尿病看護県病専門看護師

## 糖尿病患者さんの災害時の備え

ここ数年、甚大な被害を及ぼす災害が続いています。災害はいつ起こるかわかりません。

糖尿病患者さんは、災害時には食事の変化、活動量の変化、環境によるストレス、薬が手に入らないなどの理由で血糖値のコントロールが難しい状況になります。特にインスリンを注射している患者さんの場合、インスリン不足が命に関わります。災害直後は医療機関も薬局も機能停止に陥ることがあるため、自分の身は自分で守るという覚悟が必要です。

そこで、日頃から緊急時に備えて必要なものを準備しておくことが大切です。

## 災害に備えて ～3日間を乗り切るための準備を～

- |  |  |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 内服薬</li> <li><input type="checkbox"/> お薬手帳</li> <li><input type="checkbox"/> 血糖測定器</li> <li><input type="checkbox"/> 糖尿病連携手帳</li> <li><input type="checkbox"/> 保険証(コピーでもOK)</li> <li><input type="checkbox"/> 低血糖用のブドウ糖・補食</li> <li><input type="checkbox"/> インスリン自己注射セット</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難先で治療が続けられるよう、処方されている薬の名前を覚えておきましょう</li> <li>・お薬手帳のページや注射の写真をスマホや携帯で撮影しておくと、薬の名前を忘れたときに役立ちます</li> <li>・水が十分に確保できない可能性があるためブドウ糖はタブレットかゼリータイプを持っていると便利です</li> </ul> |
|--|--|

## 食 事

被災地で支給される食糧は、おにぎりや菓子パン、缶詰などエネルギーの高いものが多く、逆に十分な食糧が確保できないこともあって血糖値が不安定になります。必要な量だけ食べることを心がけ、食事が十分にとれない場合の薬の飲み方やインスリンの打ち方を主治医と相談しておきましょう。

## 運 動

多くの被災地は運動ができる環境になく、運動不足となりがちです。

## ＜おすすめの運動＞

- ・高齢者は椅子に座って膝を上下する運動
- ・1日1000歩程度の歩行運動
- ・歩くスペースがない時はラジオ体操



## 薬 物

インスリンを使用している人、飲み薬だけの人で対応が異なります。

食事量が不安定な場合の治療薬調整について日頃から医師に確認してきましょう。災害時に関わらず普段から内服薬は2週間くらい、インスリンは1か月分くらいの予備が必要です。医師に相談すれば余分に処方してもらえます。

## 低血糖

災害時、食事がとれない場合や復旧作業による運動量の増加による低血糖に注意が必要です。被災地では水やコップの準備が困難になるためブドウ糖はゼリータイプや固形のものを準備しておくとう便利です。

(糖尿病看護県病専門看護師 高務 監)